# 学び、胸熱くした東京（6月6～7日）

［第 38 回全国公害総行動参加記］　いそかん　萩森　繁樹

## 石原環境大臣交渉（右写真）

5:30河曲（かわの）発の電車で上京。環境省の建物に入りました。セキュリティはそこそこで通過。22F の第 1 会議室。円卓のテーブル正面、司会のすぐ後ろに座らせていただきました。

総行動運営委員長の小池さんがみえたのでご挨拶。ぐっと手を握りしめて、「これでお会いするのは 2 回目ですね。いつも磯津通信ありがとう。あれは“理論紙”ですね」と笑顔を返して下さる。（小池さんは、今回の総「立て役」今年で引退される。この 2 日間、何度も彼の獅子奮迅の姿を拝見する）11.00～11.38 の短い交渉でしたが、予定取りの配分で気迫で迫る交渉団、簡潔で鬼気迫るものでした。初めて環境大臣・副大臣揃っての交渉らしい。

フクシマ楢葉町の金井さんは震災関連死で亡くした伯母の無念を語り、次々と起こる原発トラブルいい加減な除染を糾弾します。ミナマタの松岡さんは自身の永い苦しみの生活を述べ、なぜ父も母も姉兄も認定されているのに私だけ認定されないのか納得できない、と食い下がります。

全体の答弁はすべて副大臣が原稿を読み上げました。最後、石原大臣は「身体がすぐれない中わざわざ。いずれも大事な課題」とは言いましたが、交渉団代表委員の森脇さんに環境大臣としての感想をと求められたのに対し、「個々のケースは勘弁して欲しい」とマイクをはずして言っただけでした。（この交渉と石原の様子は、今回の集会のあちこちで「被害者への感想すら言えない環境大臣」と皆さんから酷評されていました。）

## 官庁街　昼デモ

霞門（環境省すぐ前）日比谷公園入り口に集合。松平さんのトランペット（写真右端の人）が迎えてくれました。私は、東京地元の国公の先頭集団に入れていただきパレードに

参加することにしました。
「国は公害被害者を救済せよ！」「国と東電はフクシマをもとにもどせ！」２２種類のシュプレヒコールを叫んで、官庁街を練り歩きました。途中、経産省前テントひろばではエールの交換をしました。ここは、経産省が推進した原発に対する抗議と、被災者・原発廃絶を願う全国の人びとの非暴力の実践の場です。大きな声を出して、心地よい昼デモでした。

## 午後は政府・東電交渉に加わる

弁護士会館クレオで前から 2 列目のフクシマ原告団のすぐ横に座らせていただきました。開会冒頭、総行動を代表してマイクを握る手をふるわせ「収束宣言なんてとんでもない。核のゴミをどうする。子どもたちが心配だ」と一気にボルテージをあげる小池さん。東電は 7 人、政府側は 4 人（後で徐々に増える）

一番バッター相馬の中島さんは落ち着いてみえるが，声は座っている。先日も人のいない浪江町で家族 5 人が家に帰って花壇を造っているのを見かけた、入れないわが家で庭のせめて花壇ぐらいきれいにと。私たちは望んで避難しているのではない。われわれの救済になんの心の垣根もなかろう。国の責任・東電の真心を見せて欲しいと迫ります。

伊藤さんは、フロントガラスを割られ、寝静まった仮設にロケット花火を打ち込まれ、私たちは放射能で、補償で、仮設で二重三重に分断されている。なぜ、廃炉にしないのかと悲痛な惨憺たる生活を話し、謝って欲しいと迫る。

樽川さん（写真奥の立ってマイク人）の事実はあまりにも重いものでした。「私は金が欲しいのではない。農産物と人の謝罪が同じなのか。3.11 事故後、この手で、（自死し）ロープにぶら下がっているオヤジを降ろした。どんな気持ちか分かるか。なんで、キチンと謝罪できないんだ！」私は、涙が出てきました。会場からは怒号が飛び、あまりの糾弾に壇上の東電の部長ら 7 人は下のフロアーに降りてはきました。紙を持つ東電代表の手も震えています。詰め寄る交渉団。しかし、最後まで謝罪はありませんでした。政府の経産省、復興庁、環境省、文科省、厚労省の答弁も木で鼻をくくったものでした。

収束宣言を撤回しろ、そのことが賠償に大きな影響をしているんだ。（それでも、撤回するとは最後まで言わず。）廃炉要求についても東電は、「会社として

（右写真、追求に壇上から降りて文書を読む東電部課長ら）

の判断は未定。冷温停止状態を維持している」の一点張り！フクシマの総意は廃炉。その上での復興だ！未定の理由はなんだ。早く回答しろ。私たちは未来も希望も奪われて死んで行けというのか！

沖縄に避難している茨城県水戸の若いお母さんも鋭いものでした。私の身体からセシウムが検出された。子どもたちも血をとって、エコーして、尿検査して、不安を抱えて生きている。子どもに何かあっても親の私は何も代わってあげれない。誠実に対応しなさいよ。大丈夫って、なんで言えるんですか。セシウムが私の中に入っているのがいやなんです。私の中からセシウムを回収して下さい！！

この悲痛な訴えに対する東電の回答は許せないものでした。「水戸市は離れている。検査値は小さい」「茨城の人が検査を受ける合理性はない」と。

いわき市からは原発労働者の声。実際の現場では細かいところは有人作業。クレーンも放射能で汚れるので使い捨て。それで古いものを持ち込むクレーン業者。仮設だらけの配管配線。累積７０msv で線量がオーバーすると交代。こんなんじゃなくて国家プロジェクトで資金を出し、高い技術で収束作業を本気でしないと。

まとめに立った小池さんは「あまりにも現実はひどいもの。そして東電の回答もひどすぎる。現地は怒りそのものだ。樽川さんの問題の重要性を認識し、収束宣言撤回、原発廃炉、実態を反映した賠償、子どもたちの健康被害調査、冬の除雪、原発労働者の健康など現地懇談会・説明会を開くべきだ」と力強く結ばれたのでした。

## 日比谷公会堂での総決起

5:40 から鐘と太鼓のリズミカルな音と踊りが私たちを迎えてくれる。福島県いわき市の郷土芸能「じゃんがら念仏踊り」新盆の家を供養して回る踊り、それを東日本大震災の御霊供養に重ねて。

公会堂は全国からの参加者で席はすべていっぱい。四日市から一人参加している私の席などない。かろうじて東京大気汚染の席の会場一番うしろの端に座らせて頂いた。バスで参加している愛知・名古屋南区の伊藤さん、澤さんが優しく声をかけ弁当などを下さる。司会が各団体の運動をかいつまんで紹介し、団体代表が決意表明する形で進んで行きました。聞いたことはあるけれど、そ

の苦しみ、闘いなど何も知らない私は、その次から次へと壇上に上がられる団体の皆さんの永い闘い、今も続く苦しみに驚きながら、聞き入っていました。

イタイイタイ病、薬害イレッサ、カネミ油症、スモン、アスベスト、道路建設、有明海干拓、大気汚染、基地爆音被害、ミナマタ、原発被害…。自殺を考えかろうじて今がある。長い裁判と不当判決との闘い、痛む身体にむち打ち犯されて身体は元に戻らない。しかし、そんな中粘り強い闘いが制度をつくり、なかまを救ってきた。力強い決意に精一杯の拍手を送る会場。そこは連帯と結束の場なのでした。

司会の石川さんが四日市も紹介をと考えたとおっしゃってみえましたがとんでもない。確かに患者はいるしまだ課題を抱える四日市の現状は伝えなければならないが被害者の皆さんが壇上に立ち、その現状と闘いを言うならまだしも私などに語る資格はない。ただ、こんな全国の闘いを聞き学ぶ場として参加したり、新しく四日市で若い人たちが公害から学び立ち上がる日が来ればそれを紹介したり、全国と連帯する日は来るかも知れないとは思ったのです。

圧巻はフクシマの訴えでした。「あってはならないことが起きてしまいました。被害者は帰るに帰れない。今後の見通しも立たないままです。」司会の紹介で壇上いっぱいに並んだ人々。（右写真）原発事故被害いわき訴訟 1800 名の代表、続く「生業を返せ、地域を返せ」福島原発事故被害弁護団と原告の皆さん、昼間お会いした樽川さん、中島さんの姿も見えます。

家族はバラバラにされ、絶望の中で立ち上がった人たち。過去は変わらないかも知れないが、未来は変えられる！オールフクシマの訴えは胸に迫ってきました。最後は、松平さんのトランペットで「ふるさと」の合唱とガンバロー。誰よりも大きな声で、一番うしろの席から舞台に届けとばかり大きな声で歌いました。三番あたりになると涙が出そうになりました。（会場出るとき、年配の婦人から「いい声で、お上手ですね」なんて言っていただき、何か駅に向かう足取りがとても軽かったのです。）

## ２日目早朝ビラまきと文科省交渉

5:00 過ぎに起き、食事を済ませて急いでホテルを出ました。場所は環境省の

出入り口横を自分で選びました。東京の方といっしょに並んで昨日の報告と今日の予定を書いたビラを配ります。受取はまあまあかな。なんか断り方もスマートのような。一時間ほどでした。

その後、交渉まで時間があったのでコンビニを探しがてら国会議事堂の方まで歩きました。議事堂横の公園は静かで、議事堂前はもう修学旅行生が次から次へと記念写真におさまっていました。そう言えば、昨日から官庁街に日の丸とフランス国旗が並んで至る所にさしてあります。警備の方に尋ねるとフランス大統領が来るらしく、原発輸出や再処理の話し合いかと思うと、そんなんなんで国旗揚げてまで迎えたらなあかんのやと思いません？

文科省に戻るともう交渉団は中に入って始まっていました。迎えに来てくれた大臣官房の長谷川くんに案内されて席に着きました。見てくださいこの若いスタッフ。（右　写真）まるで娘や息子の世代と交渉しているこちら側交渉団のオジサンたち。もうすでに興奮状態で感情的にヒートアップ。しかし相手は落ち着いたもの。文科省の責任の範囲内で居直って、関係部署が応じている感じでした。大臣官房、初等中等教育局、研究開発局、スポーツ・青年局と係長級の皆さん。こんな激しい責めに何を感じてこの時間を座っているのだろうか。それにしてもこんな若い官僚連中に日本の文部行政は回されているのかというような無力感に似たものも感じたのでした。同じように興奮してはと、時間があったので初めて発言に立ちました。四日市の 80 年代副読本問題と塩浜小の避難訓練に絞って具体的に冷静に現状を話したつもりです。答弁を聞く時間はありませんでした。退席時名刺交換をした長谷川くんは「貴重な意見をありがとうございました」とねぎらってくれ、少し話してよかったかなと思いました。

## まとめにかえて

環境省（左写真）前のまとめの集会。なつかしい顔をたくさん見ました。倉敷の大田さんとも話しました。今度は何人かと来たい。そして、経団連とか電事連との交渉にも参加してみたいと思います。一日半でしたが大変学びの多い、心揺さぶられる時間でした。私が地元で何をしたらいいのかも少し見えた気がしました。